

捕食寄生性甲虫サビマダラオオホソカタムシの生態と カミキリムシ防除への利用

浦野 忠久 氏
(森林総合研究所)

日時：2015年6月19日（金）16:30～18:00頃

会場：明治大学生田キャンパス 中央校舎0310教室

全国各地の松林で松が枯れる被害が広がり大きな問題となっています。その原因となっているのがマツノザイセンチュウによるマツ材線虫病と、このセンチュウを媒介するマツノマダラカミキリです。マツノザイセンチュウに感染した松を救うことは難しいため、マツ材線虫病の対策はマツノマダラカミキリを対象とした殺虫剤の散布に委ねられますが、十分な効果が得られていないのが現状です。

サビマダラオオホソカタムシ（甲虫目：ムキヒゲホソカタムシ科）はカミキリムシ類の幼虫および蛹に寄生する、甲虫目では少数派の捕食寄生性昆虫です。本種の成虫は枯れ木の樹皮などに産卵し、孵化した幼虫が材内の寄主を探索し、麻酔して摂食します。成虫は長命かつ多産で室内飼育法も確立されていることから、天敵資材としての利用が期待されます。岡山県のマツ材線虫病の被害を受けたアカマツ林で、本種のマツノマダラカミキリに対する高率の寄生が認められました。このこときっかけとなり、マツノマダラカミキリ防除に向けたプロジェクト研究が行われました。今回の講演では、森林総合研究所で取り組まれてきたサビマダラオオホソカタムシの生態解明、飼育法およびカミキリムシ防除技術の開発についてお話しして頂きます。